

## 資料2

---

今後の過疎対策に関する  
国の見解について

## 国における検討体制(出典資料)

- 総務省過疎問題懇談会 新たな過疎対策に向けて～過疎地域の持続的な発展の実現～
- 自民党過疎対策特別委員会 今後の過疎対策の方向性(素案)

## 過疎地域の課題

- 人口減少率、高齢化率、若年者比率、経済指標、公共施設整備水準といった指標は全国平均より厳しい状況
- 公共交通網の維持、医療・介護人材の確保、集落の維持・活性化が課題

## 過疎地域を取り巻く社会情勢の変化

- 東京一極集中と全国的な人口減少……………(日本の全体のリスク増大)
- SDGsの理念の広がり……………(持続可能性、多様性等の考え方)
- 新しい人の流れと人と地域のつながり……………(田園回帰、関係人口)
- しごとづくりの新たな展開……………(サテライトオフィス、多業化)
- 集落づくりの新しい組織とネットワーク……………(小さな拠点、地域運営組織)
- Society5.0の可能性……………(革新的情報技術を過疎地域で活用)

# 今後の過疎対策の方向性

- 食料・水・エネルギーの供給、心のふるさと、多様な生態系保全などのほか、  
 ・「**先進的な少数社会(多自然型低密度居住地域)**」として国土の価値を發揮  
 ・食、生活、芸能、文化などの**多様な価値を發展させていく**  
 ・**都市部の被災の低下、災害リスクへの備えの役割**  
 などの価値・役割が存在。

- これらの過疎地域の価値・役割は、  
 ・SDGsで示されている考え方と親和性が極めて高い。  
 ・都市及び国全体の發展に重要であり、**過疎地域と都市が共生の関係**になるよう国民的合意形成が重要。

